

発言者	発言内容
事務局	<p>資料1「行動計画の改定に係るスケジュール（案）」、資料2「愛知県環境教育等行動計画 原案」、資料3「委員等意見への対応について(行動計画改定関係)」について説明。</p>
千頭会長	<p>資料2に、今まで第3章としていたところを、第2章の3として入れ込んだところが大きな変更点である。全体の構成として意見はあるか。</p> <p>また、第1章では、これまでの行動計画の評価を「環境学習等の取組は一定の進展がみられるものの、…（略）…学びが十分行動につながっていない」としている。それを受け、課題を2点挙げ、その上で行動計画の改定点を2点挙げている。その辺りはどうか。</p> <p>また、第2章に記述されている「5つの力」についてはどうか。なお、「共働」と「協働」の使い分けについては巻末に、一人一人の人間が他者と力を合わせる場合に「共働」、事業者やNPO、学校といった主体が他の主体と連携する場合に「協働」を用いる旨、記載されている。</p>
平井委員	<p>非常にすっきりして読みやすくなったと感じる。「学びが行動につながっていない」という課題があるから、第1章の「3 行動計画の主な改定点」では、「行動につなぐ力を育む」と「環境学習等の機会の拡充と質の向上」が挙がり、それが第2章の『5つの力』と各主体の取組の展開につながっているので、すっきりして読みやすい。</p> <p>また、第2章の部分で、各主体に期待される取組とどんな力を育むのかのつながりの明示について、前回意見が挙がっていたが、この構成では、5つの力を育むことと機会の拡充を図るという2本の柱でそこに迫っていくという構成に整理されているので、筋が通っている印象を受けた。</p>
千頭会長	<p>13 ページから 33 ページまでに各主体の具体的な取組の記述がされているが、その部分についてはどうか。</p> <p>細かい話だが、「期待できます」と「期待されます」という2つの表現があり、主体的な表現の「期待できます」や「期待します」の方が良い。「期待します」は言い過ぎかもしれないが、「期待されます」では他人任せのように聞こえる。</p>
荻須委員	<p>流れがすっきりした感想を持った。第1章の1「(2) これまでの行動計画の評価」では、「環境学習等の取組は一定の進展がみられるものの、不便を伴うような行動や自主的参加意欲を要する活動は実践率が低いこ</p>

発言者	発言内容
千頭会長	<p>とから、学びが十分行動につながっていないといえる」（6ページ）とある。これからの目的が「学びを行動につなげること」であり、それを促すと「不便を伴うような行動や自主的参加意欲を要する活動の実践率」が上がる。そのため県として、一人一人の行動につなぐ力を育み、環境学習等の機会の拡充と質の向上を行う、という流れがある。その後第2章で、5つの力の図が書かれ、各主体の取組が記述され、第2章の3で「取組の効果的な展開に向けて」が具体的に書かれ、ここでは「環境学習等の機会の拡充と質の向上」を中心に語られているので、流れが分かりやすい。</p> <p>「不便を伴う」という表現についてはよく議論になる。環境問題は、初期のころは「我慢しなければならない」と言われていた。その後「我慢ではなく楽しもう」といわれるようになったが、「楽しむだけではだめだ」とも言われている。「不便」という表現が良いのかどうか気になる点ではある。</p> <p>なお、34 ページ、35 ページでは、県が主体的に取り組む施策について記載してある。</p>
服部委員	<p>全体的な流れについては、スムーズになったと感じる。</p> <p>第2章の2の「(2) 学校における環境教育の推進」では、活動を発表する機会があることや、優れた取組について表彰される機会が与えられることが表記されており、かつ実際高等学校で行われていることが色々なところにちりばめられているので、高等学校にとって良い計画を作ってもらったという印象がある。ただ、24 ページの高等学校の「○ 自然科学や環境に関するコース等における学習の推進」では、総合学科の自然科学に関する系列と普通科の自然科学コース等の2つの例が挙げられているが、実は一番身近に環境問題を意識しなければならない学科は、県立高校では農業水産課程のような学科である。毎日外に出て、生徒自身が身をもって環境の変化等について感じている。あるいは「家庭科」では様々な消費活動を通しかなり意識を高く持っている。農林水産省等が絡み、プロジェクトを全国に発信する機会もある。今年度その発表を見たが、非常に環境に関する意識が強かった。それらの生徒たちがリードしていくべきだと思うので、専門学科が行っている環境を意識した取組についても記載してほしい。</p>
事務局	<p>そのような記述を入れたい。</p>

発言者	発言内容
千頭会長	<p>例えば農業分野では地球温暖化の適応策の問題があり、商業分野では「エシカル」は欠くことができなくなっている。なお、記述を追加するのか、新しく項目を立てるのかは検討しなければならない。</p>
百瀬委員	<p>25 ページ以降の「ア 事業者」の〈事業者に期待される主な取組〉では事業者が自らの事業の中でいかに環境教育に貢献するかについて書いてあるが、すでに学校教育や地域社会との連携をもう少しやっているし、まだやっていなくてもこれからやろうと考えている事業者への促しになるような記述があると良い。「多様な主体との連携・協働による環境学習等の実施」(27 ページ) のところで、もう少し厚みを持たせ、例えば、地域社会と協働でいろんな世代と活動をしている具体例や、企業の持つ技術力がライフサイクル全体の環境負荷を低減した例、学校教育と協働した例など、実践例が書いてあると良い。様々な例があると思うので取材していただく必要はあるが、そういったことが書いてあると、事業者は自分たちのやっていることが反映されていることに気が付くし、まだやっていない事業者も今後やってみようと感じる。</p> <p>また 14 ページで「フェアトレード商品などエコラベル商品の購入や…」と書いてあり、26 ページで「グリーン購入などのエシカル（倫理的）消費は、…」と書かれているが、どちらかという「フェアトレード商品」は「エシカル消費」である。また、「エコラベル」はできれば一番普及している「エコマーク」を例にした方が分かりやすいと感じた。</p>
千頭会長	<p>そのように修正したい。また、「多様な主体との連携・協働による環境学習等の実施」(27 ページ) 部分で、「多様な主体」と一括りにするのではなく、学校との関わりや地域との関わりについて、場合によっては項目を分けて記載するとよいか。</p>
百瀬委員	<p>学校教育ではないが、「児童館」との関わりも、EPOC（環境パートナーシップ・CLUB）ではある。年間 70～80 児童館で出前事業をおり、それも記載してほしい。</p>
千頭会長	<p>学校、児童館（放課後児童クラブ・放課後子ども教室）、地域社会をそれぞれ中身が分かる様に補足したい。</p>
事務局	<p>そのように対応したい。また、25 ページの「ア 事業者」部分にも厚みを持たせるように記述を追加したい。</p>

発言者	発言内容
服部委員	<p>事業者の部分では「事業者の持つ資源を環境学習等に活かす」（27 ページ）等で、事業者からの学校への助成制度等の支援について記載してあるが、中には愛知環境賞に匹敵するような賞を設定しているような事業者がある。環境大臣の表彰がされるようなものや、100 万円の賞金が贈られるようなものもあり数多くの学校が応募している。そのような制度は学校にとってはとてもありがたい励みになるので、表彰制度について一言入っているとよいと感じる。</p>
千頭会長	<p>「多様な主体との連携・協働による環境学習等の実施」（27 ページ）部分に追加できるとよいか。</p>
百瀬委員	<p>環境教育の中には、農業者との関わりもあると思う。農業者についての記載が少ないと感じる。スーパーや農協などでは、農業者と地域社会と小売業が一緒になり、農業体験を実施しているところが多くあり、消費者の多くいる都会の親子や子どもたちが、農業者との関わりを通して食や生物多様性について学んだりしているので、そのような関わりについて記載してあるとよいか。26 ページでは「農林水産業であれば…」と記載があるが、農林水産業の企業としてやっているということだけではない。地域との関わりの中で、食べること、生物多様性を学ぶ機会をやっているということも 26 ページもしくは 27 ページ部分で記載してほしい。</p>
事務局	<p>そのようにしたい。</p>
千頭会長	<p>農林水産業の記述については、自然体験だけではなくもう少し踏み込んだ取組についても記載してほしいとの指摘であった。</p>
岩井委員	<p>様々な取組と SDGs の関連づけについて、SDGs の 17 のゴールは国際的な枠組みの中の取組であり、169 のターゲットを見ても抽象的な書き方がしてある。春日井市の施策について SDGs と関連づけを試みた際に、例えば「地球温暖化に関する啓発活動」では、「7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに」や「13 気候変動に具体的な対策を」だけではなく、様々なゴールと関連づけられる。この計画の中でも、取組を SDGs と関連づけることで社会への貢献をより明確に示すことができることや、環境問題を理解するきっかけになることなどが書かれているが、この計画を作ることがどのように SDGs と関連づけられるのかや、市町村がこの計画をもとに取組を推進する際に、どのように取組と SDGs を関連づければよいのか教</p>

発言者	発言内容
大鹿委員	<p>えてほしい。</p> <p>SDGs の話はとても重要であると思う。ただ、今回の計画に具体的に盛り込むのは時期的に難しいと思う。環境省が企業に対して SDGs をやりましようと言っており、文部科学省も学校教育に入れましようと言っているが具体的に動けていない現状がある。具体的に示すのは難しいが、この計画が 2030 年までの計画なので、何も入っていないよりは入れた方がよいと思う。それぞれの立場で将来的に SDGs を推進していくことを抽象的にでも入れた方がよい。具体的には来年度以降行動計画を推進していく中で決め、示していければ良いが、今の状態では SDGs の紹介だけになっているので、「SDGs を意識していきましょう」というような、SDGs を推進する柱となるような文言を入れると良いと思う。</p> <p>学校教育分野でも、「4 質の高い教育をみんなに」だけで良いのかという議論がある。その他に一個でもという話であり、逆に何でも当てはまるということでも困る。今具体的な議論をしても議論が終結しないが、別の場でぜひ議論をすべきことだと思う。</p>
千頭会長	<p>今は第 1 章に紹介として SDGs についての記載（3 ページ）があるだけである。その部分は今のままで、第 1 章の「3 行動計画の主な改定点」（6 ページ）に「持続可能な社会を支える『行動する人づくり』…」と記載があるのでこの部分に入れるのか、あるいは第 2 章に入れるのか、あるいは「はじめに」に入れるのか。本来であれば第 2 章の頭に SDGs についての記載があれば良いが、第 2 章の組み立てを変えたくはないし、「5 つの力」の前に入れるとかえって混乱するかもしれない。「行動計画の主な改定点」の冒頭に、今回の計画改定では SDGs と一対一で対応させながら組み立てをしているわけではないが、基本的に大事な視点だという指摘をしておくことが良いか。</p>
事務局	<p>当初は、第 2 章の中で SDGs のロゴマークを入れたり、5 つの力の花びらに濃淡をつけたりしていたが、記載が抽象的で、ロゴマークが本当にこれだけで良いのかや、花びらの濃淡がこれで良いのか、という議論になるので、現時点で入れるのが難しかった。</p>
千頭会長	<p>2030 年を目指すときに SDGs の視点は非常に大事なので、次年度以降の具体的な展開のところでこれを十分踏まえるというようなことを書けると良いか。「はじめに」に記載するのもよいが。</p>

発言者	発言内容
事務局	どこかに SDGs の視点についての記載を入れる方向で検討する。
岩井委員	<p>現在春日井市では、地球温暖化についての実行計画の見直しを行っており、その中に SDGs との関連性を入れたいと考えている。大鹿委員が言われたように、「7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに」や「13 気候変動に具体的な対策を」のあてはめだけでいいのかや、逆にたくさん関連づけをしすぎてしまうことについての議論が出ている。他の自治体の資料を見ても、具体的に関連づけて公表している自治体がなかなかなく、県の計画がどのようになるのかを聞いてヒントを得たいと思った。</p>
千頭会長	<p>市町村の環境計画を改定していく際に、今後 5 年で SDGs の視点を無視することはできなくなると思う。また、「17 パートナーシップで目標を達成しよう」についてはどの計画にも共通する話である。</p>
岩井委員	<p>17 については色々当てはまると思っていたが、国際的な枠組みの中でのパートナーシップであり、一自治体と事業者との関わりがそれに当てはまるか疑問を感じることもある。</p>
千頭委員	<p>16 プラス 1 の 1 の部分は、必ずしも国際的なパートナーシップだけではない。我々はそれを違うレベルで受け止めたら良いと思う。一人一人が世界とつながっているのだから、受け止めるのはそれぞれで良いと思う。</p> <p>SDGs の記載については大きな問題なので、検討した上でできればパブコメには出し、意見が入りきらなかった場合はパブコメと並行して考えていくこととしたい。</p>
岩井委員	<p>計画を変更して書くということもあるが、今後取組を推進していく中で取組や方針を示してほしい。</p>
千頭会長	<p>第 3 章 (36 ページ) 「計画の推進」についてはどうか。</p>
浅野委員	<p>「2 進捗状況の把握」の表 2 (36 ページ) で、「評価の対象とする主な事業例」が以前は「幼児を対象とする…」 「小中学生を対象とする…」 と断定的であったのは気になっていたのだから、今回「など」が記載されたことは嬉しい。その背景について、4 ページの下部で「…環境学習等の取組の一定の進展がうかがえます。しかし、連携・協働してそれぞれの得意分野を活かし合うような取組は、あまり進んでいないと言えます」とあるが、</p>

発言者	発言内容
千頭会長	<p>これが実態であると思っている。そうであれば、今後の進捗状況の把握は、このような連携・協働にもスポットを当てるべきだと思っている。12月16日（土）にもりの学舎で行われた「Green Gift 地球元気プログラム」にインタープリターとして参加したが、これがまさに連携・協働の事業であり、東京海上日動、環境省、日本NPOセンターが連携し、かつ愛知県が共催していた。プログラムは子どもたちの手でみんなが集まる楽しい森を増やそうというものであり親子を対象にしたものであったが、たまたまデートで来館したカップルや、サツキとメイの家に来館した大学生の4人グループが、子どもたちが森の手入れをしているのを見たり、クイズラリーに参加したりと、世代間の交流ができた良いイベントになった。そのため、「進捗状況の把握」（36ページ）の表2の「共働する力」の「指標例」のところが、「・連携・協働に関する講座『やイベント等』の参加者数」となったら嬉しい。また、進捗状況の把握については、行動計画の中では主な事例となっているが、柔軟な形で把握していくことを期待している。</p> <p>36ページの表2では、『共働』する力、「評価の対象とする主な事業例」の中の「連携・『協働』の促進や…」と、「共働」と「協働」の2つの言葉が混在しており、それをどうするかという議論もある。</p> <p>また、全体の概念図についてはどうか。5つの力などがうまく表現できているか。</p>
篠田委員	<p>ざっくりとこんなものだと考えればよくできていると思う。また、「愛知県環境学習等行動計画」が、細かい乗り場案内ではなく、東京に行く方向を示す程度の方向性と考えれば、細かい表現を入れないということも考えられる。細かいことまで全部入れたら今の10倍以上のボリュームになると思うので、大きな方向性を示すという考え方であれば、今回のものが非常にすっきりしていると思う。</p>
千頭会長	<p>今の指摘のように、この計画が何を書いているのか、取組の方向性を示していることを「はじめに」部分に追加しても良いか。</p>
荻原委員	<p>概念図について、5つの力が行動につながることを分かりやすく図式にされていると思う。今回の改定では、学びを行動につなぐことが大切だとしているが、学校現場では道徳教育で同じようなことが言われており、学び理解するだけではなく、実践する力に結びつけていかなければならない。この改定案では、学びが行動に結びつくように取組の例が豊富に書か</p>

発言者	発言内容
大鹿委員	<p>れているので、学校にとって大変役立ち参考になるものとなっていると感じる。</p> <p>また現在、「主体的で対話的で深い学び」に学校の方向を変えていかなければならないとされているが、どうやったらそうした力が付くのか、どんな活動で、どのような場でそうした力をつけていかなければならないかを考えたときに、環境教育を題材に「主体的、対話的で深い学び」ができると思う。そのためこの計画が学校にとって役立つ材料になると感じた。</p> <p>概念図は、シンプルなのでこの図は良いと思った。今後行動計画を推進する際にこの図を活かせないかと考えている。評価の部分にも関わってくるが、例えば、県民、企業、学校などで、「やっている取組によってこんな力をつけています」「NPO と自治体がこういう連携をしています」と5つの力部分にシールを貼るなど、ある程度活用してもらえるような形にできたら良いのではないかと。社会がひとまとまりになっているのでそこは難しいが、提供側も受手側も見える形にするとよいのではないかと。そのような使い勝手を考えて、この形がシンプルで良いのではないかと。そのため、丸の中に収まる形であると、シールやワッペンやバッジなどに使えていいのではないかと。思う。</p> <p>また SDGs について、「進捗状況の把握」部分で、「この取組が SDGs のこのゴールに当てはまる」のように入れて差別化を図ると、SDGs を評価にも使えると思う。</p>
千頭会長	<p>SDGs の 17 のゴールとレベルは違うが、様々な取組について『家庭』における『理解する力』をターゲットにした取組』『学校』における『活用する力』をターゲットにした取組などを示すために、図を使っているのではないかと指摘であった。</p>
荻須委員	<p>図について、前回花びらを一部大きくするなどの意見を出したが、今回の図がシンプルで良いと思う。イラストなどが入ってもイメージが引っ張られてしまう。なお、白黒印刷をするのであれば、文字を縁取りするなどをしても良いと思う。</p> <p>また、興味のある人が手にする場合と、そうでない場合がある。37 ページに用語の使い方が取り出されているが、計画の中には「SDGs」や「アジェンダ」など難しい言葉が多く書かれているので、分かる人もいるかとは思いますが、「この用語については何ページに詳しく書いてある」ということをまとめたものがあると良いと思う。</p>

発言者	発言内容
平井委員	<p>また、最終的にはイラストが入ってくる。現在の行動計画の表紙のイラストは子供のイラストばかりで、タイトルも「環境学習等行動計画」なのでパッと見て学校のことだというイメージを持ってしまう。学校だけでなく家庭や社会も入るので、イラストについても検討してほしい。</p> <p>概念図については大筋これで良いとは思いますが、我々は議論を積み重ねているので、真ん中の花びらが5つの力で、周りの3つが主体だということが分かるが、初めて見た人が、花びらと周りの3つの丸の関係について理解できるのかが気になる。各主体は、5つの力を育む場でもあり学びを行動につなぐ場でもあり、育むことが行動につながることで行動することそのものが育むことにつながるということが含まれているので、5つの力が3つの主体に取り囲まれているのは良いと思うが、関係について分かるように、図が汚くなってしまうかもしれないが花びらの中心に「学びを行動につなぐ5つの力」を入れて、主体のところ「家庭で」「学校で」「社会で」と「で」を入れると良いのではないかと思った。できたものを見ないとイメージが分からないが。</p>
千頭会長	<p>外のリングに「3つの主体」というのを入れるということでも良いか。</p>
橋本委員	<p>概念図については、シンプルな形で良いと思う。現在の色合いは意味があるのか？</p>
事務局	<p>色合いの検討はまだできていない。また、白黒で印刷したときに社会が濃くなってしまっても感じるので、白黒で印刷しても良いように検討していきたい。</p>
橋本委員	<p>この図を見たときに、色が付きすぎて分かりにくいと感じた。また、「社会」が暗い感じがするので明るい色にしてほしい。</p> <p>また、計画の評価について、プログラムの実施数や参加者数などの数を出すということだが、それは行動する人づくりの手段に対する評価である。重要なのはアンケート結果に基づいた「どういう気持ちの変化があったか」の分析等だと思う。人づくりの手段に対する数字が上がったから人づくりができているという評価はおかしいと思うので、そういった評価の仕方をお願いしたい。</p>
菅沼委員	<p>事務局と一番話し合ったのが、「進捗状況の把握」の部分である。例え</p>

発言者	発言内容
	<p>ば、「他者と共働することの価値を感じられたか」のアンケート結果と「連携・協働に関する講座の参加者数」によって「共働する力」を評価できるものなのか、何をもって5つの力を評価し、進捗状況を把握できるのかが議論となった。橋本委員の指摘通り、それによって出た結果がイコールではないとは思う。しかし、それをひとつの方法として、またはいくつか指標を積み重ねながら、県民がどれだけ5つの力をつけ、行動できる人づくりができたのかを把握する一助にしたいと考え、今回指標例として出した。今回の協議会の意見やパブコメ等をもとに今後さらに検討していきたい。</p> <p>SDGs については、17 のゴールがいたるところに関わってくるが、表現し記載するのは難しいのでひとつにまとめた形で出した。</p> <p>県としてどのような事業をやっていけば良いのかや、県民、学校、社会と一緒に何をやっていけば良いのかを、行動計画改定後、計画を基にして具体化していく。</p>
千頭会長	<p>指標については、議論しだすときりが無い。評価していく中で、「この指標だけでは評価できない」という話に必ずなってしまうとは思う。</p>
古鷹委員	<p>概念図について、「共働」が黄色でぼやけてしまっているの、違う色にしたり、文字を黒くしたりするなど、ぼやけないような工夫をしてはどうか。また、指標例のアンケートの対象について聞きたい。</p>
松岡委員	<p>分かりやすく良いものになってきたと感じた。全体として、目的が明確になり道筋が明確になった。ただ、はっきり分かりやすくさせることで抜け落ちることもあるし、実はもっと複雑なものでもあるので、そういう観点では物足りないと思う部分も当然ある。しかし、バランスが大事だと思うので、そのような意味では良い計画案だと思う。</p> <p>概念図については、正直に言うと、バランスは良いが、インパクトが弱いと感じた。計画では方向性を明確に打ち出しているのに、この図では方向性が分かりにくい。濃淡等で表現をすることも考えられ、議論をし出したらきりが無いということではあったが、指摘があったように、この図では「5つの力」と「3つの主体」との関係性が分からないので、平井委員の言われた、花びらの真ん中に「学びを行動につなぐ五つの力」の文字を入れた方が良いという意見には賛成である。もう一つの図（10 ページ）を残しているし、概念図はシンプルなこの図で良い。色等については検討してほしい。</p>

発言者	発言内容
千頭会長	<p>概念図は、白黒印刷のバージョンとカラーのバージョンと両方作った方が良いか。</p>
松岡委員	<p>私は、「地域社会」の役割がものすごく大切だと思っている。社会の中の一部にあたるのかもしれないが、団体でもなく、行政とも少し離れて、地域各地で色々な組織ができて主体的に動いている状況がある。その主体が発展し、力を持ち、行動計画の目的を達成することが望ましいと思う。行動計画がどのようにいきわたるかという議論もあるが、「地域社会」にこの行動計画がいきわたって、この計画を参照し積極的に行動していくようにできることが望ましい。</p>
千頭会長	<p>概念図は、行動計画を全て凝縮して表現する図でもあるが、これから行われる様々な取組がどのように位置付けられているのかを示す時に使う図でもあるという大鹿委員の指摘があった。あるところである取組をするときに、「主体はこれとこれが関わり、目指すべき力はこれとこれをターゲットにしている」ということが意識できるような図であると思えば、この図は良い。</p> <p>指標についても意見が多く出た。指標では、他の計画の評価を行った際分けておいた方が良かったことがあるので、アウトプット指標（参加者数や回数等）とアウトカム指標（県民の意識や行動）を分けた方が良い気もする。アウトプット指標は、お金や人手をかければ数を増やせるが、アウトカム指標ではお金や人手で単純に評価が上がるわけではなく、すごく効果的にやらなければいけないので、違う議論ができるかもしれない。</p>
岩井委員	<p>資料3の「市町村及び県庁内各課室への意見照会」の「行政の取組について」で、「市町村には専従職員を置いて実践していくような余裕がないのが実情」とある。本来は各市町村に応じたプログラムを行うことが良いとは思いますが、やりたい思いはあっても、専従の職員を置いてやることのできない市町村は多いと思うので、例えば各市町村が使える環境教育のプログラムを県で用意いただき、各市町村やボランティアがそれを活用してできるようにするなど、選択肢の一つとして市町村が共通で使えるものがあるとありがたい。</p>
千頭会長	<p>各市町村で専従職員がいないことに対し、どう支援するかは大きな課題である。10年以上前に、当時はあまり活用されなかったが、県が共通プログラムを作成したことはあった。</p>

発言者	発言内容
	<p>行政の事務事業自体を NPO や地域が人件費を含めて委託するなど、行政の仕組みを変えるというのもおもしろいと思う。次年度以降、県が取り組むべき課題であるので、それは今後検討していきたい。</p>
事務局	<p>今後の流れとしては、12月25日（月）までに追加の意見があれば教えていただきたい。改定案を微修正し、事務局と千頭会長と検討しパブコメにかけることとしたい。</p>
千頭会長	<p>事務局と会長にパブコメにかける改定案を一任するという事で良いか。</p>
委員	<p>（異議なし）</p>
千頭会長	<p>パブコメで出た意見と、さらに直す部分があれば改定案を修正し、次回協議会で最終案とする。 議題については以上とする。</p>